

榎えのき

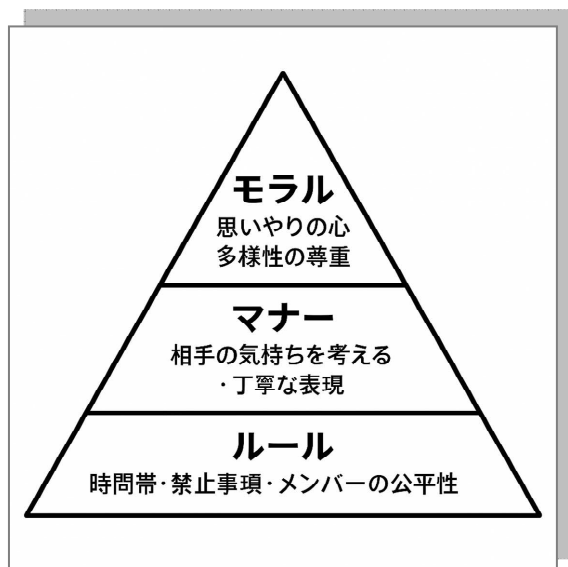
令和7年9月5日発行 校長 久保田 勲

みんなが心地よく過ごすために～SNS時代の学級づくり～

最近、高学年を中心に、子どもたちの間でグループ LINE などの SNS を利用したやり取りが広がっています。情報を共有したり、連絡を取り合ったりする便利な手段ですが、正しい使い方ができないと、人間関係のトラブルや心の傷につながることもあります。

本校では、SNS を安心・安全に使うために、「ルール・マナー・モラル」の3つの視点から子どもたちに考えさせる機会を設けています。

「ルール・マナー・モラル」の3つの視点から



まず【ルール】(きまり)について。

LINE などの SNS は本来、連絡や情報の確認に使うものです。個人の気持ちや不満をぶつける場ではありません。また、もし「クラスの LINE グループ」とするならば、参加はクラスの仲間全員に保障されるものであり、「入れてあげる・あげない」を決める権利は誰にもありません。さらに、夜9時以降や朝早い時間の投稿は、生活リズムを乱す原因にもなります。こうした基本的なルールを、丁寧に伝えています。

次に【マナー】(思いやりのあるふるまい)について。

「読んだ人がどう感じるか」という視点をもって言葉を選ぶことが大切です。「これを送ったら、相手はどんな気持ちになるかな?」と立ち止まって考える力を育てていきたいと思います。学級活動の時間などを使って、仲

間と安心して過ごせる環境づくりについて話し合っています。マナーは、ルールよりも一歩踏み込んだ「思いやりの現れ」です。たとえルールに反していなくても、相手を不快にさせる投稿や、一部の人のみで盛り上がるようなやり取りは、結果として誰かを傷つけることがあります。

そして【モラル】(人としての心の在り方)について。

思いやりの心、多様性を認める気持ちは、SNS 上でも同じように必要です。誰かを排除したり、無視したりするようなやり取りは、見えにくくても大きな心の痛みにつながります。道徳の授業では、そうした心の成長を支える題材を選び、丁寧に扱っていく予定です。

SNS は、子どもたちにとって「もう一つの教室」のような場所になりつつあります。持っていることが当たり前ではありません。持たせない選択に、疎外感を心配する声もありますが、守れるものの大きさも確かにあります。それぞれの家庭の判断には、意味と価値があります。持たせるかどうか、また使わせる場合は、家庭としての責任が必要となってきます。だからこそ、家庭・学校が手を携え、正しい使い方や心の在り方を支えていきたいと考えています。これからも保護者の皆様にも「ルール・マナー・モラル」の視点で、子どもたちを見守り、ご指導いただければ幸いです。



学校 HP

学校 HP の紹介 日々の教育活動や学校情報を発信していきます。学校を知る手段としチェックしてください。